「保戸島回想」佐藤　睦典（院27回）

四極大分

〈発行責任者〉高井　道晴
〈題　　字〉桑原　豊
〈発　行　所〉
大分市金池町２－７－21
パークサイド大分駅まえ302号
四極会大分支部
TEL（097）538－2462
FAX（097）529－6623

半世紀前

佐藤　辰夫
（大学22回）

来年（二〇二二年）、大分大学経済学部は創立百周年を迎える。そのちょうど半分の五十周年はというと千九百七十二年で、私が大学三年生の時であり、アルバイトに部活にそして勉学に励んでいた頃である。

そこでその前後を振り返ってみようと思う。

私が入学したのが千九百七十年、旦野原である。三波春夫が♪千九百七十年のこんにちは♪と歌った大阪万博の年である。その年は入学はしたものの、四月中はある程度の講義はあったが確か五月六月中は学生運動の影響で休講が続いたと記憶している。大分大学でも学生運動が盛んになり、学生集会が頻繁に開かれ立て看板があちこちに立てられ、大学内でも相当の騒動が起きたものである。

学生運動といえば、六十八年から六十九年にかけての東大安田講堂事件の影響で六十九年の東京大学の入試が中止されるという事態になった。（一部過激派が七十二年のあさま山荘事件や赤軍派の一連の事件を引き起こしていくことになる。）

またこの頃は、六十年代に大流行したザ・タイガースをはじめとするグループサウンズが下火になりつつあり、フォークソングが頂点を迎え始めた頃でもある。学生にはメッセージ性の強い曲が好まれたものである。いまでも我々の世代はカラオケに行くとこの当時の曲を結構歌っているものだ。

その他大きな出来事としては、七十一年のニクソンショックと七十三年のオイルショックがあげられる。どちらも日本を、いや世界を一夜にして変えてしまった〝事件〟である。

七十一年のニクソンショックは、ちょうど私がカニ族スタイルで北海道を旅行していたときで、ニクソン大統領が発表した内容がどういう意味を持つのかしかとはわかっていなかった。しかし、後に世界の金融と経済を大きく転換させ、我々自身にも大きな関わりがあることが理解でき、さらに数年後には自身で体験することになった。一ドル三百六十円の固定相場から変動相場に移った途端、急激な円高となり、二百五十円ぐらいでドルに交換して海外旅行に行き持ち帰ったドルを日本円に戻そうとしたときは二百二十円程度まで円高が進み、少額ではあるが相応の目減りをしたものである。

七十三年のオイルショックは、中東地域で勃発した紛争の影響で中東の産油国が原油価格を引き上げたのが原因となった。こちらはトイレットペーパーや洗剤、砂糖などの生活必需品の物不足を生じさせ、国民生活に大いに支障をきたしたものである。物価も急激に上昇し、例えばガソリン価格も一リットルあたり五十円程度だったものが百円から百二十円程度までまたたく間に上がったと記憶している。

以上、五十年前の大学の状況や世の中の動きであるが、その後もバブルの崩壊やリーマンショックなどの大事件に遭遇することとなる。

最後に、来年の百周年を、コロナ禍が収束し盛大にお祝いできることを祈念しております。

四極鼎談

腹の出た同期四人と座談会

清水 紘一郎

今回は十七回生です。学生時代の思い出やその後の生活など、和気あいあいの雰囲気のなか、大いに語っていただきました。

「上野丘に集う」

(中西) 福岡県から大分大学に来て、県都なのに田舎だなというのが第一印象だった。学生の成績や年齢などはピンからキリまでいろいろ幅があったね。

(油布) 東大の合格発表を見落として落ちたと思い大分大学に入ってきたのがいるかと思えば、やっと合格できたのまで、いろいろいたな。

(小田) 入学時の門や講堂が伯父の高商時代のセピア写真と同じで感激した思いがある。校舎から大分市内が全部見渡せて、逍遥歌の景色だった。同級生は百五十人くらいで県外生が70%、現役生が30%で、各県から集まっており、結構余裕派が多かった。すぐに顔と名前を覚えた。寮生が多く下宿は少なくて、バンカラの学風が残っていた。

(中西) 総合大学では大勢の中には埋没していただろうけど、単科大学だからこそ深い人間関係が出来たんじゃないかな。クラブに入っていない学生は少なかった。

先生に、就職したら優秀な大学出身者には敵わないんだから学生のうちに人間関係を作れ、それが強みになるぞと言われた。

(清水) 熊本から大分に来て、「よだきい」の意味が分からなかったり「鉄輪」「安心院」の地名が読めなかったりで苦労したのを思えています。

清水 紘一郎 氏

「学生生活」

(清水) 私は四年間いた寮の思い出がすごく多い。汚くて障子はないし、夜中にたたき起こされるストームには驚かされた。今だったら問題になるかも?電気釜や電気ストーブは火事になるから使うなと役員が巡回して没収していたよ。風呂上りに一糸まとわず廊下を歩く豪傑もいた。

四年間も寮にいると、出身校だとか、誰が誰の後輩だとか、ほとんどわかっていたね。

(小田) 自宅生だったが、クラブの同期生のストームに加わった。よき思い出。清水さんが〝どてら〟を着て校内を歩き回っていたのを覚えているよ。今でも同期会の貴重な存在です。

(清水) 当時毛布どてらが流行っていたからね。賄いの叔母さんと親しくなってね、夏になるとトイレの横に茗荷が山のように生えていた。それを採ってきて、丼ぶり一杯、酢の物を作ってもらったのをよく覚えている。

四月には寮の遠遊会があって、耶馬渓にも行ったね。バスは四、五台だったかな。当時トキハの前に並んでいた屋台のおばちゃん達も子供連れで参加していた。楽しかったなあ。

(小田) 革靴なんか履かず、スリッパが大半だった。下駄派も結構いて、教室で音を響かせて注意された学生もいたな。

(油布) 僕は初めの一年間はまじめに吉野の家から通ったけれど、二年目になると、先輩や同級生のところに泊まることが多くなった。三年目には下宿したけどね。

(中西) 開学祭で軽音楽部のスイングブラザーズを先頭に「聖者の行進」等を吹きながら、竹町から中央町を練り歩いた。仮装行列もいい思い出になったな。

(油布) キャンプやゼミの合宿も楽しかったね。

他の大学との交流では、長崎大、山口大と伝統の三経戦があり、小規模だが楽しかったようだ。ESSは九州大会だった。

(小田) 高校は進学校で、ゼロ限から九限までの勉強ばかりだったから、大学ではスポーツをしたいと剣道部に入った。毎日二十時位まで性格も変わるくらいに打ち込んで三段も取れた。部活に集中した四年間だった。部活が終わってから家庭教師のアルバイトに行く。結構待遇が良くてね、それを資金に夏休み、春休みにはリュックサックを担いで県外の一人旅行を楽しんだ。

小田 哲生氏

(油布) 僕もアルバイトは家庭教師が主だったな。

(清水) 卒業前、学生生活を続けられるなら一生このままでいいと友人と話していたことを覚えているよ。

(中西・油布) 大学の四年があったから今の自分がある。四年間が出発点だった。

(小田) 今は豊かになったね。我々の学生時代はみんな質素で慎ましかったよ。背広なんか卒業前まで着ることはなく、ほぼ全員、四年間、学生服だった。

「勉強もしていた?」

(小田) 同期生が集まるとまず出るのは寮の話やクラブ活動。勉強の話は優の数ぐらいかな?

大野ゼミだったが、積雪の中の筋湯合宿が思い出として残っている。

(中西) ゼミは御手洗さん。一番優をくれそうな先生ということで、多かったよ。

(清水) 悪いけど、僕は頭から勉強する気はなかった。単位だけ取れれば良かった。ゼミは経済史の中村広治先生。

(油布) 僕は武藤ゼミに入った。

(中西) 英語のパスカル先生は『ほろにが』でよく見かけていたね。

(小田) いろいろ個性的な先生がいたな。重光葵の弟の重光蔵先生(政治学)、会計・簿記の和田先生、農業政策の山本先生、交通論の田原先生、金融経済論の竹村先生など、地元ゆえに卒業後もお世話になった。

「学生運動」

(清水) 杉乃井ホテルでOBSが、細川隆元氏と小汀利得氏との時事放談を収録したことがあり、僕もアルバイトで手伝った。細川氏と同じ熊本出身とわかると、〝大分大学は静かかね?〟と話しかけてくれた。自然環境のことかと思ったら、学生運動

のことだった。全国に流れていたと思うと、この勘違い、今でも忘れられない。

（中西） 学生運動は一年のときからあったよ。街中でデモをし、代表者が逮捕されたこともあった。寮生を規制する学寮学監問題が発端だ。

卒業間近に体育館でやりあったことがあったね。四年のときがもっとも激しくて、施設が占拠されて卒業式ができなかった。

中西　昌昭 氏

（油布） 僕は学生運動に疑問をもって哲学をした。

「卒業式が中止に」

（小田） 我々は上野丘最後の卒業生で卒業式はなかった。中止との情報が流れて、三十人程で教務課に式の実施を申し入れた。大分合同新聞に載ったよ。

卒業証書は三月二十五日付になっている。これは高商以来最も遅い日付で、大野先生のご自宅で受け取った。既に就職で東京に行ってしまった学生も多く、半分くらいしか集まらなかった。

（清水） 僕もそうだった。先生のご自宅で受け取ったのを覚えている。

（油布） 僕は武藤先生の研究室に呼ばれて、そこで卒業証書を受け取った。

「恵まれていた就職活動」

（油布） 求人は多かったね。県内企業や公務員より、給料が高かった県外の企業に人気があった。

就職試験はいっぱい受けて、最終的に商社に入った。卒業前に試験の日を間違えて一単位取れず、先生に頼んで追試をしてもらい助かったよ。

給与は高かったけど、大阪で三年間死ぬ思いをして帰ってきたときには、地元に就職しておけばよかったとつくづく思った。

（小田） 当時の経済学部は学校推薦で、九州の文系学部では特異な存在だったね。同期生で決定第一号は三月中だった。

「仕事に頑張った」

（油布） 僕は何回職場を変わったかな。大阪に三年、こっちに帰って工業団地事務局に五年、酒屋の番頭が十二年、そのあと市会議員を二十年。学生時代から数えると二十回くらい引っ越したよ。いろいろあったけど、楽しかった。

（清水） 仕事では、電気工事から水道工事、ガス工事、機械整備を全部自分でやっていた。歯科の「何でも屋」のルートサービスで、最初のうちは畑違いで随分苦労した。

（中西） 今は非正規や女性にとって格差が問題になっているのに比べれば、俺たちは恵まれた時代に生きたといえるね。高度成長期で頑張れば報われた。

（小田） 卒業後五年ぐらいで給料が倍になった。職場の主要な部課に四極会の先輩がおり、お世話になった。

（中西） 平成四年頃、東京に転勤した時に、寮のＯＢ会を開こうと声が上がり、鴻図寮史を手にＯＢを訪ね歩いたよ。

「リタイアして」

（小田） 二十四節気を感じる生活をベースに、新しいことに挑戦、職域をこえた交流を楽しんでいる。

（中西） ディベロッパーとして華々しかったのは昔の話で、今は釣など、いろいろと楽しんでいる。この前は同行した同期の柴田宏二君が大漁だったよ。

（清水） 私の座右の銘は、「ケセラセラ、なるようになる」。中国の四書の一編に「中庸」という言葉があってね、何事も常に偏らず過大と過少の中間がいいという、この言葉が何となく気に入って、私の独断と偏見で心の糧にしている。

（油布） 生活の中心は三年前から務めている公民館長。忙しくしている。

（清水） 今は健康第一だね。一病息災といって、一つ病気を持っていると身体に気を付けるから健康な人より長生きすると言われている。

（小田） 同期会は平成十七年が第一回。以後隔年で実施して四十～五十人が集まっていたが、コロナで平成三十年の神戸開催以後は中断。ただ、ゴルフ会だけは毎年実施して十五回になる。

（油布） コロナが収まらないと今は動けないね。

しかしコロナのお陰でＧｏＴｏイート券は使えるし外食もがら空き、別府の温泉も貸切みたいなもので、楽しんでいるよ。

油布　忠 氏

（小田） コロナが早く収束して従前のような交流を願うばかり。

同期生全員の傘寿超え目前ですが、一日一日を大切にしたい。

コロナ禍で蟄居閉塞板につき

清水　紘一郎

―対談者プロフィール―

●小田　哲生（大分舞鶴高校）
職　歴　S44年　大分県庁採用
H18年　大分県庁退職
H21年　大分県関係公社退職

●清水　紘一郎（熊本県熊本高校）
職　歴　S44年　㈱フォルディ入社
H15年　㈱フォルディ退社
現在の趣味は野菜作り、多肉植物栽培、詩歌

●中西　昌昭（福岡県宗像高校）
職　歴　S44年　建設会社入社
H13年　大分県住宅公社勤務
H17年　同公社退職

●油布　忠（大分上野丘高校）
職　歴　S44年　三共生興㈱入社
S47年　大分工業団地事務局
H元年　大分市議会議員（20年）
H30年　大道校区公民館長

支部活動報告

「コロナ禍の大分支部」

令和二年度は、新型コロナの感染拡大により、全国の大学同窓会で周年行事が中止・延期になるなど、同窓会活動は強い制約を受けました。四極会でも、本部の活動、各支部の活動の多くが実施できませんでした。大分支部も呻吟しました。

「支部理事会」

令和三年四月二十七日に大分市コンパルホールの会議室に高井支部長以下二十一名の役員が集まり、手の消毒、マスク着用、椅子の間隔を開けるなど万全の用心をしたうえで開催しました。

令和二年度の事業報告・会計報告、令和三年度の事業計画、予算等を審議し、総会に提案することが承認されました。理事のうち、井上義彦さん（大11）が退任し、新たに渡邉秀生さん（大20）と大村みな美さん（大58）が就任されることになりました。また、コロナ禍での本年度支部総会の持ち方も協議されました。

「支部総会」

前年度に引き続き三年度支部総会も簡素に実施することを余儀なくされ、理事会での決定の基づき、六月十一日にJ：COMホルトホール大分の会議室で開催しました。当初は七月三日の本部評議員会・支部長会議に日程を合わせて、懇親会で合流することを計画していましたが、評議員会・支部長会議がオンライン会議になったことを踏まえたものです。

例年実施している懇親会や新人紹介、傘寿のお祝い等を省き、会議だけの小人数による総会となりました。参加者十九名。

募金や四極会費をキャッシュレスで支払うようにできないか、親睦会の開催時には参加者自己紹介の機会がほしい等の意見とともに、芸術文化祭〝自遊展〟は大分市中心市街地活性化事業補助金の対象になるのではないかとのアドバイスもありました。

議案は執行部提案通り承認されました。内容は四極会ホームページ（大分支部のページ）に掲載しています。

「令和2年度の事業報告」

交流会
現役で働いている若い世代が集まる「職域交流会」、就職を控えて不安な学生に先輩がアドバイスする「学生と先輩との交流会」は、多数の会員等が一堂に集まる催しであるため、大学もオンライン講義を続けている中にあって、開催することが出来ませんでした。

親睦会
登山会：令和二年度の春は中止、秋は実施。
囲碁大会：中止。
麻雀大会：中止。
自遊展：例年通り実施
歩こう会：春は中止、秋は実施。

会報「四極大分」
第二十七号を発行。政治だよりには、内閣府特命担当大臣の衛藤晟一さん、大分県議会議長の麻生栄作さん、県議会議員の木田昇さん、全国市議会議長会会長の野尻哲雄さんと、大分支部の誇る大物政治家が寄稿されました。

「令和3年度事業計画の概要」

経済学部創立百周年事業の推進
九月から五回にわたる経済トップセミナーが始まるなど、いよいよ百周年事業が展開されます。地元支部として、大分支部は事業を中心となって担うことが求められています。トップセミナーや六月に開催される記念式典の成功は大分支部会員の参加動向にかかっています。事業の推進、事業への参加に全力を注ぎます。
また、引き続き募金の推進に努めます。三月末現在の目標達成率は51・4％にとどまっています。

各種交流会
事業計画では「職域交流会」及び「学生と先輩との交流会」の実施を掲げました（ただ、その後の新型コロナ感染増で実現は困難な状況にあります）。

親睦会
例年通りの実施を目指します。第七回目を迎える芸術文化祭「自遊展」は、本年度も作品展示会と共に「大分の歌音楽祭」を続けます。

会報「四極大分」
秋に第二十八号を発行します。

親睦会だより

ゴルフ大会

春の四極会ゴルフ大会

薄く雲がかかった四月二十三日、大分支部ゴルフ大会が大分竹中カントリークラブで開催された。当日の大分市は最低気温十三・三℃、最高気温二十三・六℃のゴルフ日和に恵まれた。参加者二十三名。うち初参加は伊藤寿典さん（大26）。高井支部長の挨拶、村尾哲弘幹事（大7）によるルール説明に続き、本日の健闘を胸に秘めた全員で記念撮影。インコース三組、アウトコース四組に分かれてプレイを開始した。

いつもはコンペルームで軽食を摂りながら行う表彰式は、二日前から大分県内における新型コロナウイルス新規感染者が三十名を超えてきた状況から、食事なしで行われた。

山田昌弘さん（大43）の進行で、全員に賞品が当たる成績発表。敢闘賞、ブービーから始まり、順位を読み上げるごとに事務局の是永弘実さんが賞品を渡した。最後に読み上げられた優勝者は宮川聡さん（大37）だった。三位は渡邉新十郎さん（大16）、四位は小田哲生さん（大17）。今回久しぶりの参加となった若手の活躍が目立ち、宮川さんの他、池田至郎さん（大37）が五位、山田さんが八位に食い込んだ。

準優勝の相良浩四極会名誉会長（大12）が九月から始まる百周年記念事業の経済トップセミナーへの参加要請、惜しくもブービーを逃した三浦洋一四極会会長代行（大24）からは記念募金に感謝するとともに記念事業への参加を要請した。

最後に村尾哲弘幹事から、次回から山田昌弘さんに幹事を引き継ぎたいとの提案があり、山田新幹事が決定した。

なお、梅野雅子社長（大32）の大分はとタクシー、八鹿酒造、OBS、TOS、会場の竹中CCから豪華な賞品の提供があった。

来年、令和四年春のゴルフ大会は、百周年記念式典の一環として行なわれる四極会ゴルフ大会に合流することになる。

登山会

ふきくさ山登山記

松井　一博（大学18回）

日時：令和二年十一月八日（日）
行先：ふきくさ山（1309m）
集合場所：男池駐車場
参加人数：九名

十一月七日（土）予定の登山は雨の為、翌日八日（日）に変更。当日は予報通り晴れ間の見える天気となった。午前、八時過ぎ、車四台に分乗した九名が男池駐車場に集合した。参加者は男性六名、女性三名、総勢九名で八時三十分、元気に登山開始。黒岳や男池を目指す人ばかりで、ふきくさ山登山者は我々のみであった。加藤リーダーの先導で最後尾を尾登さんがついてくれ、安心の中、いきなり急登ばかりを一時間三十分かけてようやく、万丈塔（1190m）に到着。冷気を感じながら、また途中の紅葉を楽しみながら、振り向けばくじゅう連山（黒岳、大船山、平治岳、三俣山等）が俯瞰できた。

さらに登り続ける事、一時間二十分。十一時二十分にようやくふきくさ山頂上に着いた。

残念ながら、眺望はきかず、昼食後十二時に下山開始。今度は下り一辺倒の道をひたすらに下りる。一時間で登り口とは違う九重町側林道の車置き場へ到着。（十三時）

林道に廻していた車二台で、男池駐車場に十三時三十分無事到着・解散した。

加藤リーダー、尾登さん、お世話になりました。元気いっぱいに山旅を楽しんだ参加者の皆さんお疲れ様でした。

【今回の山旅の私の感想】

・初めての無名に近い山は道に詳しい案内人が必要…名案内人の加藤さんありがとう

・極端ですが登りと下りのみの道と言う感じで、雨の日は無理だと感じた（加藤さんの雨天順延の意味が良くわかった）

・名も知らぬ山もそれなりに達成感、充実感を味合うことができると感じた

・加藤さんと私は帰りに温泉に

浸かり、身体の疲れを癒した。いつもの様に登山、温泉、帰宅後のお酒の三点セットを堪能した。

大崩の辻登山記

井上　理（大学16回）

十一人が参加して ミヤマキリシマの路

令和三年五月二十九日に四極会三十四回目の登山が行なわれた。今回は「大崩の辻」である。

初めて耳にする人も多いかと思われるが、あの九重山群の西北、黒岩山と上泉水山の間に佇みシャクナゲやミヤマキリシマのかくれた名所で標高1458mの山である。今回はミヤマキリシマに期待して。

まずは「おにぎり山」

今季は早い梅雨入りで空模様が心配されていたが、この日は雲はわずかでほぼ快晴、風もさわやかで絶好の天気に恵まれた。八時二十分頃からリーダーの加藤英彦さん（大14）の先導で長者原から十人が車四台で登山口（九重青少年の家のすぐ先）に向かう。路端に駐車し登山口へ向けて出発。八時五十分草原のなか舗装された縦走路に入る。加藤さんによれば知る人は少ないとのこと。

登山口へ入る前に、手始めに七～八人が左手のなだらかな丘状の「おにぎり山」（標高1083m）に登る。数分で頂上に着き雄大な景色に見とれる。左手近くに涌蓋山、正面遠方に万年山、右方遠方に由布岳の上部が小さく覗く。

三百六十度の絶景

縦走路に戻り九時十八分頃から大崩の辻を目指す。足元はゴロ石で歩きにくいが高度が上がるにつれ、一面緑の若草と根笹の若葉が増える。九時四十四分樹林の手前で小休止。ここで頂いた丸井家の枇杷で一息入れる。

振り返ると眼前には涌蓋山の麓に温泉の白い噴気が吹き上がっている。空気が澄み新緑と空の青さに感動。

樹林の中の登山道を登り、森を抜け右方が開けると数分で左手に古びて壊れかけの「大崩の辻縦走路」と読めるプレートの標識があり、そこから急坂を登る。樹林を抜け熊笹の中を進むと三十分ほどで尾根上に出る。

お目当てのミヤマキリシマが群生し、処々に花が美しいが虫食いの葉も目立ち来シーズンが心配される。熊笹、ミヤマキリシマ、アセビの原を抜け十一時前大崩の辻頂上に到着。全周三百六十度の絶景を楽しみながら昼食休憩をとり、おやつのお裾分けを頂く。牧ノ戸から登った渡部昭三さん（大10）が合流し十一人揃う。

泉水山を経て下山

十一時四十三分上泉水山を目指し下山開始。しばらく下り、シャクナゲ（既に花はなし）の森の大石の急斜面に続きミヤマキリシマの斜面を登り、なだらかな峰上で小休止。続いて緩いアップダウンの後、十二時半上泉水山頂上（標高1447m）に至る。眼前には三俣山、右に硫黄山、星生山、左に黒岳、平治岳を見渡せる。

十分ほど休憩し景色を楽しんだ後急坂を下る。目の前に下泉水山の緑の濃淡が美しい。十三時八分頂上（標高1296m）に至る。岩塊の上から西方に大崩の辻の名前の由来となった大きく崩落した斜面が見える。数分して下山、二時前長者原駐車場に到着。大10回生のお二人（渡部昭三・木山広喜）も無事に下山。登山口の車に戻り、解散。

炭酸泉で疲れを癒す

七人で九重町の加藤リーダー馴染みの「山里乃湯」（筌の口温泉そば）に向かう。ぬるめの炭酸泉に心ゆくまで浸かり、湯上りにジュースで喉を潤す。今回は、期待していたミヤマキリシマもきれいであったが、願ってもない晴天に恵まれ、九重連山の新緑の景色を堪能でき満足のゆく山行であった。

加藤リーダーはじめ世話人の方々に感謝いたします。

（最後に、登山者が増えるのを期待しながら筆を置く）

歩こう会

コロナに負けず

大分支部歩こう会を令和二年十二月五日（土）に開催しました。通常は春と秋の二回開催している歩こう会です。三月末に予定していた春の歩こう会は、幹事さんによる下見に基づいて綿密なコース設定をし、参加者募集も済ませておりましたが、新型コロナの発生を受けて中止のやむなきに至りました。

大分県内での発生が見られなくなった状況から、秋の歩こう会を十二月五日に計画しました。春に計画していたコースと同じ「府内歴史散歩」です。参加者募集開始後の十一月の中旬から県内でも第三波が襲来しましたが、屋内での飲食を伴うイベントではないため、今回は中止とせず、予定通りの実施となりました。

府内歴史散歩

集合場所はJR大分駅上野の森口。九時半の集合時間までに、三組のご夫婦をはじめ、参加申し込みのあった二十一名が全員揃いました。丸井弘美幹事の挨拶で直ちに出発です。

最初の目的地、若宮八幡社までは1・2km。高架鉄道の北側を歩きます。途中から日豊本線の旧軌道敷で大分市が整備した木製の歩道を進みました。参加者の多くは大分市民ながら、大半のメンバーにとって初めて歩く路でした。

若宮八幡社は大学十期の故園田孝吉さんが宮司を務められていた神社です。上野丘校舎時代、みんなが慣れ親しんだお宮でもあります。

近年整備された南蛮BVNGO交流館

参拝後、0・7km離れた南蛮BVNGO交流館へ。お願いしていた大分市観光ボランティアガイドの井本さんと山崎さんが迎えてくれました。二班に分かれて大友宗麟の功績や大友氏遺跡を紹介する迫力ある映像を鑑賞し、復元された庭園を見学しました。このあたりに大友館があったことは、鉄道高架化事業の発掘調査で発見されたとのことです。約一時間の見学を通して、南蛮交易都市府内の繁栄に思いをはせました。交流館の前で、今回も木山広喜さん（大10）に書いていただいた横断幕を掲げて記念撮影。ガイドさんも一緒に映っています。

万寿寺から遊歩公園

交流館を出て、井本ガイドさんの説明を受けながら万寿寺、来迎寺の傍を通って遊歩公園を歩きました。江戸時代までの日本人の歩き方〝ナンバ歩き〟の利点を教わったりもしました。遊歩公園には最近、記念碑や銅像などがさらに増えたようでした。朝倉文夫の「滝廉太郎君像」、「姉妹」、「みどりのかげ」、北村西望の「伊東ドン・マンショ像」などの像、「西洋音楽発祥記念碑」、「育児院と牛乳の記念碑」、…、…。時間の都合で一部の説明しか聞けなかったのが残念でした。いつか時間をみつけてじっくり鑑賞して回りたいと思いました。

府内城址で解散

十二時に最終目的地の府内城址に到着。半数のメンバーは陽だまりで弁当を広げ、最終的に解散したのは十二時半でした。貸切バスで往復するいつもの歩こう会に比べて短い半日コースの行程となりました。

歩行距離4・5km。同じ距離でも野山を歩くのに比べれば足にくるとの声もありました。大分市の最高気温は十三・九℃、風はなく、穏やかな一日でした。

大分市の中心部近くということもあり、今回は途中で抜けることも自由としていました。街歩きの良さです。

別府の桜を歩く

令和三年三月二十七日（土）、春恒例のイベント「歩こう会」を実施しました。今回のテーマは〝別府の桜を歩く〟。ひと月前まで真冬だったのが嘘のような穏やかな春の日和に恵まれました。参加者は八組のご夫婦を含む三十五名。初参加者も五名いました。

九時四十分に別府駅東口の油屋熊八像前に集合。別府が舞台ということで、別府支部前支部長の栗原稔さん（大15）と、現副支部長の明石泰信さん（大26）が差し入れ持参で激励してくれました。幹事の丸井弘美さん（大16）によるコース説明の後、出発しました。

（境川の桜）

登録有形文化財旧野口病院の前を経由して北に向かい、境川に出ました。ここから両岸に咲き誇る桜を見ながら河川敷を遡って南立石公園に至る2・4kmが今回のハイライトです。鶴見岳一気登山のコースにもなっています。高低差130mの行程は、飛び石を渡って流れを横断する所のほか、随所に石段や斜面もあり、思いのほかきつくて、行列が長く伸びてしまいました。ついには途中で棄権して川岸に上がり、タクシーで別府駅に戻る人も出ました。

（南立石公園から別府公園へ）

桜が満開の南立石公園で小休止。記念撮影の後、荘園町の住宅街を抜けて別府公園を目指します。荘園町は昭和の初め、六本の道路を放射線状に配置して造成された住宅街で、その中心にある六角温泉を外から眺めました。栄光園前を経由して富士見通りに出て市役所前の最終目的地別府公園に着いた時には少し足を引きずる人もいました。公園西口にある油屋熊八記念碑の前に集まり、渡邉新十郎幹事（大16）の挨拶で解散したのは十二時三十分でした。

新型コロナ対策で市内の公園はすべて飲食禁止となり、花見客もあまり見かけません。弁当を食べることができなくて、やや物足りない歩こう会となりました。

貸切バスの車内で参加者の近況報告を聞きながら目的地に行き、野山を歩いて弁当を食べた帰りには酒蔵に立ち寄って試飲、道の駅で買い物を楽しむのが大分支部歩こう会の通常の姿です。ここ数回は、三密を避ける必要からそれができていません。早くコロナ前の姿に戻りたいものです。

参加された四極会員の皆さん、ご協力ありがとうございました。また、事前に下見をして綿密なコース設定をして一行のリードをしていただいた幹事（渡邉新十郎さん、丸井弘美さん、松井一博さん）のご尽力に感謝します。

四極会芸術文化祭「自遊展」

第六回自遊展開催

毎年開催してきた芸術文化祭「自遊展」は、令和二年十月十七日（土）に大分駅前の「お部屋ラボ祝祭の広場」で〝大分の歌音楽祭〟、十月二十六日（月）～十一月一日（日）に荷揚町の「大分市アートプラザ」で展示会を開催しました。

大分支部活動の多くが新型コロナ感染予防のために中止に追い込まれる中、参加者の熱意で今回も開催することができました。音楽祭の方は、当初予定していた大分市コンパルホールがコロナ対応で閉鎖されたのを受け、屋外に会場を移しての実施になりました。

展示会

十四のジャンルに四十名の会員が百点の作品を出品されました。この中には他支部会員十名と大分大学写真部の学生五名も含まれています。

木版画（4）、日本画（3）、水墨画(2)、スケッチ画集(1)、点描・切り絵（2）、洋画（5）、写真（30）、能面（4）、書道（4）、俳句（6）、短歌（12）、川柳（6）、書籍（12）、映像（10）

（　）は作品数

会期中の三十日、三十一日には会場の一角で、尾登憲治さん（大22）が編集した映像作品の特別上映会も開きました。大分市で登山ショップ「山渓」を経営する傍ら、日本未踏峰クラブを設立して登山家を育てた故伊東亨さんを映した作品と、昭和四十年に大分初の海外遠征登山隊を扱った作品です。多くの山岳愛好家が集まりました。

会期中は三密を避けるため、出品者が交代で務める受付も人数を絞り手指消毒や換気にも配慮しました。来場者数は例年よ

りもやや少ない四百九十五名でした。

大分の歌音楽祭

前回に引き続き、経済学部社会イノベーション学科渡邊博子ゼミの学生が企画・運営する大分の歌音楽祭も賑やかに開催されました。リーダーの村松樹さんがまとめてくれた次の「第二回大分の歌音楽祭」をご覧ください。

第二回 大分の歌音楽祭

経済学部社会イノベーション学科
渡邊博子ゼミ　村松　樹

コロナ禍で開催した音楽祭

当イベントは一昨年に行われた大茶会開催をきっかけに「自遊展（四極会芸術文化祭）」の一部として始まったものです。音楽を通して「人々に繋がってもらいたい」そして「大分のことをもっと知って欲しい」という思いから今年度も十月十七日（土）に大分市中央町の〝お部屋ラボ祝祭の広場〟で開催いたしました。

現在、私たちの前にはコロナウイルスという大きな壁が立ちはだかっています。当たり前にあった日常が一旦消え去ってしまい、新たな生活様式を築いていかなければいけません。

イベントは四極会の方々の支援の下、大分大学経済学部渡邊ゼミ生が主体となり企画・運営して参りました。本年度は学校もオンライン授業となり、打ち合わせもオンラインを中心に行ってきました。昨年とは異なり、屋外での開催を決定し、若者から高齢者までみんなが集えるものに仕上げたいと試行錯誤し内容を詰めてきました。

音楽祭は、二〇二二年に迎える大分大学経済学部創立百周年イベントとしても位置づけており、大分大学についても知ってもらいたいという思いも込められております。

今回のテーマは「歌で会おう。音で繋がる」と題して開催しました。

出演者も来場者も元気に

当日の朝方は雨天ではありましたが、歌とともに天気も回復し、総勢二百四十二名の方にご来場いただきました。午前は高齢者向け、午後は若者向けとしておりましたが、ニーズにも合致したものとなっておりました。出演者の方々の演奏からは学生自身も元気を頂きました。このご時世のため、出演者の方にとっても貴重な場所となったとお声を頂くことができました。会場では多くの人が立ち止まり、笑顔でステージを見ている姿から音楽の偉大さを実感いたしました。これからも大分のみんなが一つとなり頑張ることで、今まで以上の新たな日常を作り出せれば幸いです。

来年度も続けます

二〇二一年十月十六日（土）に第三回大分の歌音楽祭を開催することが決定いたしました。来年度も皆さんのお越しをお待ちいたしております。

終わりに、渡邊ゼミ生は今後も大分の地域活性のためにアイデアを出し、大分の良さを多くの人に広めるため行動して参ります。何卒今後ともよろしくお願い申し上げます。

※同年九月新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、祝祭の広場におけるライブ演奏は中止しました。代わりに、大学でのオンライン開催セレモニーと出演団体の動画配信を行うことにしました。

世代間交流

山水会

「山水会だより」

副会長
加賀田　壮二郎
（大学16回）

「阿弥陀堂だより」二〇〇二年の松竹映画、小泉堯史監督、樋口可南子と寺尾聰が好演していました。奥信濃の美しい四季と共に綴られる名作映画です。心を病んだひと組の夫婦のこころ温まる再生の物語です。

山水会だよりとは全く関係はありません。

全国的なコロナウイルス感染拡大の為、中止されていた山水会が一年振りに七月二十一日（水）に開かれました。大都市は感染が未だに止まりませんが、大分市は比較的落ち着いている事。山水会のメンバーは皆七十歳以上でコロナワクチン接種が終了している事などを考慮して今回の開催となりました。

宴会前の講演は中止、会場もクドウホテルから大分センチュリーホテル一階の「レストラン・カテリーナ」での開催となりました。今回の出席は十三名。

加藤英彦会長による生ビールでの乾杯の後、すぐに懇談となりました。四極会本部の柴田局長から百周年への協力のお願いが、主に寄附の話と絡めてありました。次いで、新任の事務局長（常務理事）の荒川孝二氏（大26）のあいさつがありました。

山水会の正式メンバーの出席は八名のみでしたが、大分支部長高井氏（大21）、野尻市議会議員（大24）、衛藤参議院議員の秘書の平松氏、四極会事務所の大園女史（大34）も加わり、日頃の個別飲みの反動もあるかのような早いピッチでビールと日本酒が進んでいきました。今回は臨時の様子見なので一時間三十分を限度としました。

次回九月には講師も呼んで、会場もビジネスホテルクドウで開けるか？微妙なところです。

今回、山水会メンバーの参加は足立好範（大12）帆足三郎（大13）加藤英彦（大14）定松亨（大16）丸井弘美（大16）加賀田壮二郎（大16）柴田宏二（大17）岩尾明（大20回・院32）以上、敬称略

旦桜会

久し振りの旦桜会

第五十一回旦桜会が令和二年十一月十日に開催されました。当初八月に予定していた例会を新型コロナの感染増を受けて直前になって延期し、十一月となったものです。二月以来半年以上間を開けてようやくの実現です。

参加者はいつもより少なくて十五名。コロナ感染防止に配慮して椅子の間隔を開けて、また、席を立っての酒を注ぐのを避け、自席で大声を出さずに静かに飲食と会話を楽しむこととしました。

甲斐幸丈会長（大21）の挨拶に続き、今回の講演は高井道晴さん（大21）による「経済学部百年の歴史と記念式典」でした。学者を育てる帝国大学とは別にビジネスエリートの育成を目指して定められた高等商業学校制度により大正十一年に大分高等商業学校が誕生したこと、戦時下に高商が工業を専攻する工業専門学校とビジネス専攻の商業専門学校に別れたときに大分高商が大分経専になったことなど、講師のわかりやすい説明で、一同、経済学部の歴史に理解を深めました。在学中も卒業後も、なかなか母校の歴史に触れる機会はありません。また現在大分大学に六つの学部があることなど、出席者の大半が知りませんでした。

懇親会は、津行孝充副会長の音頭による乾杯で始まりました。しばらく静かな懇親が続いた後、百周年記念募金推進について協議しました。大分支部の募金が目標の40％前後に低迷している現状を踏まえ、参加者全員が同期の未募金者に働きかけることになりました。

その後、四人の参加者が近況についてスピーチされました。

阿部通正さん（大26）

この春、県外の企業を退職し、大分に帰って現在は大分大学地域連携プラットフォーム推進機構コーディネーターとして活躍

されています。

安東雅範さん（大21）

春の叙勲で瑞宝双光章を受章されました。現在は戸次で農業を営んでいます。

加嶋弘さん（大22）

この春に長く務めた大分支部副支部長を退任し、ご自分と奥様の九十代の両親三名のお世話に追われています。

宮川喜久生さん（大26）

別府支部長に就任しました。別府支部は募金目標の百%を達成した地域支部の優等生です。仕事に、趣味に、そして支部の仕事にまい進しています。

四人のスピーチが終わってしばらくまた懇談、会の締めは下森啓司さん（大30）でした。ラグビーのこと、募金のことなどを紹介された後、一本締めで会はお開きとなりました。

静かな懇親会で、飲みながら食べながらのスピーチや協議が進みました。飲んで騒ぐことなく、「静かに話し聞く」、こういう例会もいいものです。

桃優会

「初リモート桃優会開催」

大園　広子（大学34回）

四極会女性部会「桃優会」も六回の例会を開催することができました。令和二年度は思わぬコロナ禍のため開催できず中止せざるを得ませんでした。収束の見通しが立たないため、第六回例会はリモートを活用する事にしました。

ＺＯＯＭで三十分ほど「色で知る今の自分、カラーコミュニケーション」と題して色の専門家油布季良美先生によるご講演。後の質問コーナーはたくさんの質問が出ました。事前に先生よりチェックリストをもらい、自分がどの四季の色に分類されるか説明を聞き、双方向で楽しく学ぶことができました。ＺＯＯＭ画面上で記念撮影をして先生が退出されました。

第二部は髙野会長より創立百周年行事の説明と経済トップセミナーについて説明がありました。記念行事への参加、協力のお願いをされました。

次は参加者全員の近況報告です。一人一分以内で仕事や、子育て、コロナのこと、各地域の様子、募金をしましたなど女性の会ならではの楽しい話で盛り上がりました。

今回、初のリモート開催となり準備期間も短い中、東京四極会の西川・千葉両理事、熊本四極会の石川理事にもご参加いただいたことは嬉しい限りでした。反省点もありますが、リモートの利点を活用でき、これからの桃優会開催の一つのあり方としてとても良い経験になりました。

コロナ感染が厳しくなり、実際に集まれず急遽企画したリモート桃優会。締め切りまで短い期間でしたが、県外からの参加者や学生さん含め二十一名の参加を得て無事終了することができました。次回状況がどうなるかわかりませんが、一日も早く会員同士笑顔で会えることを願っています。

1F　レストラン カテリーナ
Tel.097-532-8807（直通）

carpe diem「今を楽しむ」

ブラウンを基調とした落ち着いた雰囲気のレストラン。ランチは新名物の「ローストビーフ」や「天麩羅」、ディナーは季節ごとに楽しめる、飲み放題付きスペシャルディナーをご用意しております。

2F　本格中国料理 李白
Tel.097-537-4613（直通）

享受歴史「歴史を楽しむ」

本場の味を受け継いだ大分を代表する本格中国料理の名店。山海の幸、豊富な素材に格別な趣向を凝らし悠久の時を経た贅なる料理の数々を心ゆくまでお愉しみください。

会議・ご宴会
Tel.097-536-2778（直通）

会議やご宴会も承っております。お気軽にご相談ください。

※お客様に安心してお過ごしいただけるよう感染症対策を徹底しております。

大分センチュリーホテル
〒870 0021 大分市府内町1丁目4番28号
TEL: 097-536-2777（代表）

国政だより

国政報告

参議院議員
衛藤 晟一（大学18回）

四極会員の皆様におかれましては、コロナ禍ではありますが日々、ご健勝の事と拝察申し上げます。

現在（八月末）パラリンピックが開催中ですが、デルタ株の感染力が強いのでワクチン接種のスピードと感染拡大との戦いが続いています。

私たちも集会等の開催・参加を自粛しています。その関係もあり、四極会有志との懇談会も中止ということになりました。何とか年末までには収束に持ち込みたいと思っているところです。

集会等の中止が多いとはいえ、七月中旬のある日を例にとりますと十時、自民党役員会。十一時、障がい者育成会。十三時、防衛省との打ち合わせ。十三時半、農林水産災害対策委員会。十四時、農産物輸出促進対策委員会。十五時、エネルギー基本計画対策会議。十六時、経済成長戦略会議。十七時、外交部会、慰安婦像、ウイグル人権問題。等となっています。

活動や会議は多義に亘るのですが、私自身は四つの方向性を持って活動してまいりました。

当然、最初はコロナ対策です。ワクチン接種や医療体制、雇用調整助成金やコロナ関連補助金対策等です。

二番目は、経済対策です。コロナ禍で個人、中小零細企業をいかに守り維持できるかコロナ後の経済成長戦略をどう進めるか！等です。

三番目は外交と防衛です。北方・沖縄担当大臣の折、中国の『海警法』が二月に施行され緊張が一気に高まりました。尖閣諸島と台湾は、『中国の革新的利益』としていつでも実行に移せることが、明確になりました。連日のように海上保安庁は出動していますが国民には緊迫した状況が全く伝わっていないようです。

四番目は、大分県出身国会議員として、大分県下・市町村の災害や陳情の状況を正確に把握し対策に生かすことです。七月にはZOOMで別府市議会議員有志の先生方と意見交換会を開催したところです。

これらの活動を行う中で日本と米国、西欧諸国との違いが明らかになりました。それは、国家の緊急事態に対する法整備です。コロナの医療体制についてもフランスではすべての病院と医師の詳細な配置方針が規定されています。（日本では民間医療に関してはお願いをするのみです。）（米国ではワクチン開発は国防総省が統括しています。）

これまで日本は、阪神淡路大震災・中越大震災・東日本大震災と大きな災害に遭いましたが、その時その時に特別措置法を作って対処してきました。現在の菅内閣は場当たり的だと批判されますが、平常時の法律や行政システムの中で出来る事が限られているのです。

コロナ・大雨災害・南海トラフ地震等が重なれば日本は平常の機能を失い大変な危機に陥ると思います。プロジェクトを作りあらゆる緊急事態に対応できる基本的な法整備が絶対に必要です。微力ではありますが、全力で取り組んでいきたいと思っています。

最後になりますが、四極会員皆様の益々のご活躍・ご健勝を祈念申し上げ報告とさせて頂きます。

県政だより

『感謝』・『愚直に！』
アフターコロナを見据えて！

大分県議会議員
麻生 栄作（大学32回）

第七三代大分県議会議長（合議制二年の慣例）退任に当たり、お支え・ご指導賜りました四極会同窓諸氏をはじめとする全ての県民皆様に心から感謝御礼申し上げます。

就任中には、ラグビーW杯、皇室御代替り祝賀行事など、まさに一生に一度の機会にめぐり合いました。また、新型コロナウィルス感染症や豪雨災害にも遭遇し、県議会の責任者として、県民皆様の「救う力」として、できることを淡々と実践して参りました。今後は、この二年間の経験を活かし、本県が抱える深刻な『人口減少』等の諸課題ついて、『愚直』に取り組んで参る覚悟です。

議長として、特に遅れている本県の社会資本整備や国土強靭化ついて中九州自動車道路（犬飼～大分）の計画段階評価調査着手や東九州自動車道完全四車線化整備路線への格上げ及び大分港護岸整備着手などに政府与党国会議員などとの連携によって成果を発揮でき、新たな『シビックプライド（地域の誇り）』づくりに寄与できました。

今後は、本県で暮らす県民や次世代を担う若い皆様から人生の節目に於いて、『選ばれる大分県』をめざした取り組みが不可欠です。それには、大分県民・県内各地域資源が持つ自身の魅力磨きが重要です。これ迄の様な地域の「外」からの人やモノ・イベント頼り（ホーバー・宇宙港も？）では、地域が真に豊かになることはありません。「外」から肥料を入れる促成栽培方式によって地域経済を大きくしようとしても結局、人も地域もやせ細ってしまいます。暮らしの中の技術や知恵を蓄積した命が豊かに育まれ、潜在能力を十二分に発揮される今までの概念を打ち破る新たな経済のカタチを追及して参ります。感染症にも負けない真に強い大分県経済が暮らしの中の技術と知恵によって「発酵」に向かう「内なる生命力」を大分県に定着させられるように！足下を見つめ、ひたすらに愚直に恩返しに徹します。

暮らしに笑顔ある、未来への発展に向けて

大分県議会議員
木田　昇（大学38回）

お陰をもちまして、県政二期目の活動を無事に進めることができております。四極会の先輩や様々な分野・職域で活躍しておられる同窓の皆様に対し、心から感謝と御礼を申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症の収束に向けた「決め手」とされるワクチン接種が進んできたところですが、ワクチン接種を早々に取り組んだ諸外国での感染再拡大を見ると、依然として予断が許されない状況だと思います。

県議会では、本年の第二回定例会で「新型コロナウイルス感染症対策特別委員会」が設置されました。私も委員として指名されておりますので、「感染症に対応する体制」、「社会経済の再活性化」、「新しい生活様式への対応」等について調査・審議し、議会の意見をとりまとめるべく現在作業を進めています。

新型感染症の世界的流行は、二〇〇二年のSARS、そして二〇一二年のMERSの感染拡大をみて、近い将来に発生することが以前から予測されていました。にも関わらず、日本独自のワクチンや治療薬の開発で遅れをとったことは反省すべき点として指摘せざるを得ません。

将来の危機予測と言えば、少子高齢化・人口減少、東京一極集中・地方の過疎化、地球温暖化・気候変動等の問題も相当程度の前から予測されていたものばかりです。SDGsの目標は二〇三〇年とそう遠い将来ではありません。「コロナ」の完全終息と「アフターコロナ」を見据えた政策形成と合わせ、自然災害への備えなど山積する課題の解決に向け、研鑽・努力を重ねて頑張らねばと意を固くするものです。

いよいよ開学百周年事業がスタートいたします。四極会の会員相互の「絆」を深め、大いなるレガシーを次代へ繋ぐことができるよう、百周年記念事業の成功に向けて同窓会活動のさらなる活性化を願うところです。

四極会の皆様のご健勝を祈念するとともに、引き続きご指導とご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。

市政だより

市政報告

大分市議会議員
野尻　哲雄（大学24回）

四極会大分支部会員の皆様、ご無沙汰しています。新型コロナウイルス禍や熱中症にも負けず元気でお過ごしのことと拝察いたします。

第五波のデルタ株が猛威を振るう中、政府の対応が後手後手で大変心配していますが、東京オリンピック・パラリンピックの開催をテレビ観戦しながら日本選手の活躍に一喜一憂しているところでしょうか。

がんばれ！日本！

さて二月の市議会議員選挙では皆様のご支援有難うございました。

お陰で六期目の選挙をクリアし、任期四年議員として活動できます。引き続きお世話活動に、また、市民の安心・安全の確保と市政発展に向けて頑張る所存です。

市議会議員選挙の後、三月九日付で大分市議会議長と全国市議会議長会会長の任期も終了いたしましたが、五月二十六日付で全国市議会議長会相談役に就任いたしました。

全国市議会議長会会長在任中は、議員の厚生年金への加入を最重要課題として取り組みましたが道半ばで実現を見ませんでした。

また、地方税財源の充実確保、東日本大震災からの復興、防災・減災対策の充実強化（国土強靭化対策五か年の延長）、中でも被災者生活再建のための支援金拡充について要望活動を展開し、中規模半壊が追加されるなど所期の成果を挙げることができました。任期後半には、新型コロナウイルス感染症の対応について政府に対策を要望して参りました。

全国会長としての貴重な体験をこれからの議会活動に活かしてまいる所存です。

皆様の今後ますますのご健勝をお祈り申し上げます。

コロナ対策について政府はどうして一つだけの対策（ワクチン接種）に固執するのでしょうかね。自宅療養が全国で拡大してきているのに、その患者に出す薬が解熱鎮痛薬のカロナールと咳止めだけ。それでは患者は安心して自宅療養できません。

肺炎を起こして重症化するのを待つだけです。これでは、医療崩壊するのは当然の帰結ではないでしょうか。

コロナウイルス禍の初期段階での治療薬として医療現場でアビガンの使用が認められていましたが、今は政府管理のもと手に入れることはできません。政府はコロナ感染初期段階の治療薬として四種類の治療薬（デキサメタゾン（ステロイド）・アクテムラ・レムデシビル等）を推奨しています。更に、抗体カクテル療法の使用を感染初期段階で進める決断をやっとしました。

ワクチン接種も自己責任、治療薬を使用するのも自己責任の非常事態と思っています。コロナ感染の自宅療養者やホテル療養者の方々に安心感を与えるためにも、アビガンをはじめ治療薬を配布すべきと思います。自宅での死亡をなくすために使える治療薬はすべて使うという発想に転換するべきです。どうしてそれが出来ないのでしょうか。重症化するまで患者を放置するのはおかしい。

デルタ株の感染爆発によってワクチン接種しても感染するようになったのに、政府をはじめ、コロナ専門家、マスコミ含めて一億総ワクチン接種にこだわっています。日本人の思考回路は戦前と全く変わらないことに不安を感じています

（妊婦にはアビガンの使用は禁止されています）

新理事語る

渡邉 秀生（大学20回）

令和三年六月十一日に開催された四極会大分支部総会で新たに理事に就任しました。私は昭和四十七年に大学を卒業してから四年前に大分にUターンするまで、ほとんど東京勤務でしたので、大分に戻ってからいまだ日が浅く、現在は言わば「大分学勉強中」の身です。

今回理事のお話があった時、そんな私に大分支部の理事が務まるだろうかと自問しましたが、「岡目八目」の言葉を思い出し、お話をお受けすることにしました。

企業のOB会も同じ状況にありますが、四極会もご多分に洩れず、各種行事への参加者数の減少が喫緊の課題と思われます。

一口に四極会員と言っても、社会人としてスタートを切られたばかりの方々、仕事と子育てに追われる働き盛り世代の方々、組織の長などで大きな重責を担われている方々、そして私のようにリタイアして毎日がゴールデンウィーク状態の高齢者などが混在しており、四極会は価値観や会への帰属意識がそれぞれに異なる世代の集合体と言えます。

ですから私は、これからの四極会、ひいては大分支部活性化のキーワードは、「ダイバーシティー（多様性）への対応」ではないかと思っております。

また曲がり角に直面したときには、一度原点に立ち返り方向性を確認することも大切です。四極会大分支部会則の総則第3条には「本会は、本部並びに母校との連携を保ち、会員相互の親睦を図り、地域及び我が国経済の発展に資することを目的とする」と書かれており、会則を作られた当時の先輩たちの熱い情熱と高い志（こころざし）がうかがえます。

これから大分支部の理事の一員として活動することになりますが、大分を外から見て来たことを最大の強みとして、先輩たちが掲げられた四極会大分支部の理念の実現に少しでも寄与できるよう、微力ながら努力してまいりますので、よろしくお願いいたします。

大村 みな美（大学58回）

このたび理事をさせて頂くことになりました。大先輩方の中で、また来年百周年を迎えるこの時期に理事を拝命することになり大変恐縮ですが、先輩方から学ぶチャンスを頂き大変光栄に思います。

◆四極会参加のきっかけ

私が四極会に参加するようになったきっかけは、働いていた会社が二〇一五年頃に職域企業への加入を検討しており、その窓口として事務局を訪問したことです。職域企業として参加することになりましたが、大分大学経済学部出身の先輩が社内にいなかったこともあり、総会や学生との交流会、世代間交流の場である昭平会に積極的に参加をするようになりました。それまではあまり四極会を意識したことはなく、自分が四極会の活動に参加することになるとは全く思っておりませんでした。イメージとしても大先輩方の交流会の場という印象があったため、二十代の私が参加することはハードルが高く、実際に参加してみても二十代・三十代の参加は少なくイメージどおりでした。しかし、優しい先輩方に恵まれ、どのような場に参加しても気さくにお話しくださったり、ほかの先輩方に紹介してくださったりと参加しやすいようにしてくださいました。大変多くの先輩方と出会うことができ、仕事の面ではもちろんですが人生の先輩として学ぶことが多くありました。現在働いている会社は職域企業としての加入がないため個人で参加をしておりますが、四極会への活動に参加するきっかけに恵まれ感謝しています。

◆理事としての抱負

四極会の活動や世代間交流会への二十代・三十代の参加が少ないと感じています。六年前の私のように、参加することにハードルが高いと感じている方が多いのだと思いますので、来年の創立百周年や今後の活動に向けて、若い方々と四極会を繋ぐ窓口になれればと思っています。

現在はコロナウイルスの影響もあり、四極会の活動もほとんどが行われておりませんが、四極会の参加のハードルが高いと感じている方は、世代間交流会「昭平会」や女性部会の「桃優会」から参加してみてはいかがでしょうか。特に女性部会「桃優会」は最近発足した会なので二十代・三十代の方の参加が非常に多いです。開催されるセミナーでは、カラーコーディネートについてやマナー講習など仕事にも私生活にも活かせるお話が聞けるため、現役でお仕事をしていても主婦の方でも興味を持てる内容です。

二十代・三十代の若い世代の方参加の窓口になれるように頑張ります！

職場だより

「九州で一番信頼される建設会社をめざして」

株式会社佐伯建設　管理部経理財務グループ
刈屋　乃ノ佳（大学66回）

株式会社佐伯建設管理部の刈屋　乃ノ佳と申します。

いつも四極会の皆様には大変お世話になっております。昨今は新型コロナウイルスの感染拡大により交流の機会が少なくなっているため、皆様のお目にかかることも難しい状況ではございますが、今回の『職場だより』を通じて弊社のことを少しでも知っていただけたらと思います。

弊社は地域総合建設会社として建築・土木・リフォーム工事に携わり、創業時より「誠実一途」という言葉を大切にしながらものづくりに取り組み続けています。現在は大分市の本社ほか、福岡市、北九州市、熊本市、鹿児島市に拠点を置き、九州一円に営業展開しております。

弊社では学校などの公共建築や商業施設、医療施設、社寺・仏閣、道路やトンネル・橋梁などといった様々な物件を手掛けています。大型工事では大分市の金池小学校建替工事を進行中です。特に社寺・仏閣の工事を専門に扱う社寺部を設置している地域の建設会社は珍しく、弊社の特徴の一つと言えます。現在は大分市の重要文化財「柞原八幡宮」の大規模保存修理工事を施工中で、本殿ほか計五棟の解体を二年半にわたり行っています。今後は部材の修理と、解体した建物の復元が行われる予定です。

社員二百七十名のうち、四極会会員は十二名在籍しており、主に営業職や事務職として活躍しています。宅地建物取引士や建設業経理士などの資格を有する社員もおり、様々な業務でその知識を活かしています。また大分大学工学部出身者は二十五名在籍し、技術職として建設施工管理に従事しています。

弊社は平成二十九年には創業百周年を迎え、今まで以上に社会に貢献することを目標とした基本方針として「九州で一番信頼される建設会社になる」を設定しています。弊社の強み・特徴を活かして社会的課題を解決し、〝社会的価値〟と〝経済的価値〟を創出することで、弊社がお客様・地域・社会から必要とされ続ける会社になることを目指しています。

さらに日々変わりゆく社会情勢に対応するため、働き方改革にも取り組んでおります。毎週ノー残業デーの実施や、デジタル技術の活用による作業の効率化など、作業所の四週八休に向けた取り組みを推進しております。まだ建設業には長時間労働の傾向がありますが、こうした取り組みを通じて労働環境の改善と社員満足度の向上を図り、一人ひとりがやりがいを実感し、よりよい仕事をすることで、さらなるお客様満足度の向上に取り組んでいます。

これまで以上に誠実なものづくりに邁進し、地域の皆様に必要とされ続ける会社を実現していきます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

同期会

大学十四回生 全国同期会開催に向けて

加藤　英彦（大学14回）

十四回生は、今まで四年毎に全国同期会を開催してきており、直近では平成二十八年三月に大分にて開かれ、六十二名の参加があった。

ところが、昨年開催予定の同期会は、コロナ禍により延期せざるをえない状況となった。

そこで、来年母校百周年の記念すべき年に次の同期会を開催しようという趣旨のもと、その第一回目の準備会を丁度百周年の一年前に当たる令和三年六月二十五日（金）に、本部事務局にて八名の世話人が集まって開いた。

まず、百周年記念行事に協賛する型で令和四年六月二十五日（土）に同期会を行うという意思決定をした。

そして、今後その会に向かってどのように準備をしていくかのアウトラインを話し合った。

過去の開催でいかに準備していくかのノウハウを持っており、それを復習する型で今後の準備会合を開いていこうと決めた。

その後、同期の名簿を五十音順にチェックしながら、一人一人の近況や情報を交換していった。

果たして何人が集まるのか、できるだけ多くの同期の参加をもって母校の百周年を祝いたいものである。

来年が楽しみだ。皆様それまでお元気で!!

集まった世話人（衛藤伸一、加藤英彦、此本英一郎、塩月靖浩、中尾義郎、平井丈夫、松嶋育男、森修吾）以上八名

帰っちきたで！

宮崎銀行　大分支店長
岩﨑　智寛（大学43回）

本年七月一日、勤務先である株式会社宮崎銀行より大分支店長を命ぜられ、思い出の詰まった大分の地に約二十六年ぶりに戻ってまいりました。

昨年、勤続二十五年の節目を迎え、限られた時間の中でこれからを漠然と考えていた矢先、大分支店転勤を命ぜられました。運命的とも思える異動に、銀行員生活の中で初めて、内示を見た瞬間心の中でガッツポーズをしました。

着任して約二ヶ月になりますが、まず大分市の変貌に驚かされました。大学周辺も含め目を見張るものがありましたが、お客さまを訪問させて頂く間に、だんだんと土地勘も呼び起こされ、大学時代の記憶がよみがえってきました。

学生時代は奥田憲昭教授のゼミに所属し、地域経済を専攻していました。奥田ゼミの一期生でしたが、先生が関西ご出身ということもあり楽しいゼミでした。三年生の時は大阪、四年生の時は沖縄とにかくお出かけの好きなゼミだったことを覚えています。

先日、仕事の合間にゼミ仲間の吉田茂君を訪ねました。現在、大分市内で保育園を経営されていますが、転職してから今日までのこと、また奥田教授のその後を聞きました。まず、私を覚えていてくれたことに感謝すると同時に、それぞれが酸いも甘いも噛み分けながら人生を歩んでいるのだなと痛感し、二十六年の歳月の長さを改めて感じました。

一方、サークルは友人たちと一緒にバドミントンサークル「BCフロンティア」を二年生の時に立ち上げました。私は恐ろしいくらい運動神経が音痴でしたので、汗を流した後のコンパ、食事を楽しみに参加し、もっぱら試合の時などは一生懸命ヤジ将軍の責務を果たしていました。お酒も弱いのですが、コンパは練習以上に頑張ったことが思い出されます。卒業旅行では野郎だけで道後温泉で豪遊したり、卒業コンパでは都町で号泣したことなど。

サークル仲間とも疎遠になっていますが、今回大分に戻り皆に会いたいと思う気持ちが募るばかりです。もし、時を戻せるのであれば間違い無く、大学で過ごした四年間であることは変わりません。

私が卒業した平成七年は金融業界ではバブル崩壊に伴う金融機関の経営破綻等激動の年でした。その後、金融ビッグバン、金融再編、超低金利、コロナ禍等を経験し、現在は我々地方銀行の存在が問われています。そのような中、銀行員として新たなステージの船出の場が大分となったことは、本当にありがたいご縁であり、このご縁を大切に一分一秒を大切に後悔しないように過ごしていければと考えています。

最後に本年度も私ども宮崎銀行では大分大学から一名の新入行員を迎えました。現在も多数の職員が在籍し、先輩から受け継いできた四極会の血が脈々と流れています。大分支店も私を含め三名（一名は育休中）在籍しています。「地域社会との共存共栄」の経営理念の下、大好きな大分のために微力ではございますが邁進してまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

長い間お疲れ様でした。

市役所生活を振り返って

田中　雄三（大学31回）

令和三年三月三十一日付けで大分市役所を退職しました。三十八年にわたる市役所生活でしたが、振り返るとあっという間の三十八年間であったような気がします。

昭和五十八年四月に入職し、教育委員会の庶務課を皮切りに資産税課、街路課、清掃施設課、児童家庭課、高崎山管理公社への派遣、観光課等々、そして最後は稙田支所長としての大役を無事果たすことができ退職を迎えました。

いろいろな方から、市役所生活の中でどの部署が一番印象深かったか、楽しかったかと聞かれますが、迷うことなく「高崎山」とその後の「観光課」時代が一番楽しく、想い出深いと答えています。特に、記憶に刻まれているのが、C群のボスザル「ベンツ」失踪事件。捜索隊を編成し山中を捜索する姿や、ようやく発見され一度群れを離れたベンツが奇跡的に再度C群のボスに返り咲いた姿（サル社会ではあり得ない事）などが全国放送で取り上げられ話題になった事です。また、ベンツ復帰後、年に一度の高崎山無料の日に「くまモン」と「ベンツ」のコラボを仕掛け、一日に約一万人という記録的な来園者数になった事。大分市の観光大使である指原莉乃さんが来園されたのを機に、AKB48の選抜総選挙に併せて高崎山の人気ザル選抜総選挙を実施し、人類代表としてガイド職員を参戦させるなど、遊び心を持ったイベントを作った事。このような積極的な展開がたびたび全国放送で取り上げられ、観光客の大幅な増加につながった事は大きな成果であり、一緒に苦労した職員とも喜んだものでした。

観光課長時代には、高崎山第一号の赤ちゃんに公募により「シャーロット」と名前を付けた事が、英国王室の王女

と同じ名前という事で三千件もの苦情が寄せられる程の大騒動になり、とても生きた心地がしませんでした。ところが英国王室から「名前の付け方は動物園の自由」とのコメントなどを受け、佐藤市長が「シャーロットのままでいきます」との記者発表のおかげで無事収束したことは、ついこの間の出来事のようです。

市役所生活最後は、稙田支所長としての三年間。稙田地域の活性化、安全安心なまちづくりに傾注しました。中でも地域活性化の部分では、大分夏の三大祭りにまで成長した「ななせの火群（ほむら）まつり」です。二十回開催のなかで抱えるマンネリ化や様々な課題の解決に向けて、若者のアイデアの活用を考え、社会イノベーション学科の渡邊博子教授に相談し、渡邊ゼミ生の協力を得て見直しを行いました。これも大分市役所支部長時代の渡邊教授とのご縁のおかげであるし、また多くの諸先輩方や同窓生と関わりが持てたことは私にとって大きな財産になっています。残念ながら「火群まつり」はコロナ禍の影響により中止となり、学生が頑張って創り上げたリニューアル版は実施できませんでした。在職中にその「火群まつり」を見届けることができなかったことが唯一の心残りです。

現在は、株式会社大分まちなか倶楽部という中心市街地の活性化、賑わいづくりなどを行うまちづくり会社に勤務しています。ここでも早速ご縁があり、渡邊ゼミの学生が企画・運営に取り組む「大分の歌音楽祭」に関わらせていただいています。改めて「同窓の絆」のありがたさを感じているところです。

結びに、経済学部創立百周年記念事業もいよいよ来年六月に迫ってきましたが、本記念事業の成功、そして四極会の今後ますますのご発展、会員の皆様のご健勝、併せてコロナの収束を心からご祈念申し上げます。

社長紹介

変化に変化する！改革と挑戦で新しいTOS創りを目指す

株式会社テレビ大分
代表取締役社長
池邉　強（大学29回）

今年六月十八日の株主総会で、㈱テレビ大分の社長に就任いたしました。私を育てていただいた良き先輩、支えてくれる良き部下、また四極会の皆様はじめ知り合えた多くの方々のおかげだと心から感謝しているところです。

放送業界、とりわけローカル民放を取り巻く環境はコロナ禍に関係なく激変しています。

テレビ（地上波）離れ、YouTubeをはじめとする動画の氾濫、ナショナルスポンサーのインターネット広告へのシフト、キー局やNHKの配信事業（見逃し&同時）の加速、放送行政改革の動きなどローカル局にとって悪い要因は数え上げればきりがない状況です。

弊社も数年前から放送収入に陰りが見え始め、右肩下がりが顕著になってきました。そこで昨年夏に今後について詳細に経営分析を行いました。その結果、今のままでは単年度赤字が連続し、十年後には総資産が半減するとの予測でした。十一月の取締役会に、固定費の削減と成長戦略を盛り込んだ「構造改革計画」を提案し承認されました。その後、外注依存で肥大化した番組制作の見直しや最も心の痛む人件費の削減などに着手しました。管理職を集め、また組合にも出向き経営数字や分析結果を開示して説明し、理解と協力を求めました。社長を引き受けた以上、この計画を着実に実行し地域に貢献できる会社として発展させていくことが私の最大の使命と考えています。

固定費の削減は当面の対処療法であり、この構造改革で何より重要なことは成長戦略の実現です。社会は大きく変化しており、その変化への対応力に成長の鍵はあると思っています。今後進展するデジタル社会や、脱炭素を目指す中でのエネルギー分野、5G・アバター・AIなど発達が著しい先端技術、さらには宇宙港などこれから到来する未来に寄り添うことで新規ビジネスの芽は大いにあると考えています。そのためには五十年幸い順調だった既存のビジネスからの良い意味での脱却という意識改革が必要不可欠です。

イノベーションは『若者・馬鹿者・外者』が起こすといわれています。きのうまでテレビを見なかった新入社員こそ、どういう放送局なら魅力があるのかを提案できるかもしれない。既存の業務に縛られない個性的な社員から「おっ」というアイデアが生まれるかもしれない。異業種の方々との交流からオープンイノベーションの発想が出てくるかもしれない。

幸い優秀な社員が数多くいますので、このイノベーションを生み出す力を積極的に応援したいと思っています。

母校の校歌が大好きです。新しいTOS創りへまさに『奮えよいざいざ我が社員！』です。来年の百周年には四極会の皆様と高らかに歌いたいと思っております。

皆様方には今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

社会人一年生のプロフィール

①所属部署又は支店名 ②出身高校 ③ゼミ名
④大学でのクラブ、同好会 ⑤大学の思い出 ⑥趣味
⑦会社での抱負

梅林建設㈱
園田 和寛（大学69回）

①経理部
②大分豊府高等学校
③中村美保ゼミ
④無所属
⑤友人と全国各地に旅行に行ったことです。行った先々での思い出は、一生忘れることのできないものとなりました。
⑥サッカー観戦、散歩
⑦現在は、日々の業務をこなすことで精一杯です。今後は、自分がその業務を行うことの意味を理解し、自分自身の価値を見いだせるように、職務に励んでいきます。

㈱トキハ
伊藤 杏奈（同）

①営業一部三階メゾンプレタ
②国東高等学校
③城戸ゼミ
④所属経験なし
⑤～⑦大学時代は、コロナ禍に入り旅行もできない日が続いたため、さまざまなアルバイトを経験しましたが、どれも今の自分に大変役立つ貴重な経験となりました。趣味は料理と、ＹｏｕＴｕｂｅやサブスクで動画を見ることです。社会人になり、これからたくさん仕事を任されるような責任感と誠実さのある人間に成長していきたいと思います。

㈱大宣
山本 三志郎（同）

①営業本部
②山梨県立韮崎高等学校
③江原慶ゼミ
（マルクス経済学ゼミ）
④軟式野球サークル
⑤大学生活での一番の思い出は友人たちと過ごした日々です。
地元から遠く離れた大分の地で暮らしていく中で、時には寂しく思うときもありましたが、支えあえるような友人たちといることで、楽しい学生生活を送ることが出来ました。
⑥野球観戦、ライブ鑑賞
⑦入社から半年が経ち、まだまだ分からないことだらけで先輩方に迷惑をかけておりますが、少しずつ仕事について学び始めてきております。
新型コロナウイルスが大分県でも猛威を振るい、イベントなど無くなった仕事もありますが、逆に生まれた仕事もあります。イレギュラーな事態に臨機応変に対応することのできるような一人前の社会人になれるよう、頑張っていきたいと思います。

㈱豊後企画集団
加藤 風花（同）

①お部屋ラボ事業部 光吉店
②別府青山高等学校
③井川ゼミ
④所属なし
⑤大学時代には良い出会いに恵まれていたと思います。三～四年時のゼミ活動は特に楽しくて、学習面以外にも学びや成長が得られたので強く思い出に残っています。
⑥漫画、パズルゲーム、イラスト
⑦立派な会社に恥じない社員になれるよう頑張ります！

㈱豊後企画集団
荒金 陽平（同）

①お部屋ラボ
大分駅上野の森口店
②別府鶴見丘高等学校
③江原ゼミ
④所属なし
⑤友人と二人でハイエースに車中泊しながら中国地方を三泊四日の行程で旅をしたこと。鳥取砂丘でラクダに乗りました🐫（※コロナ前です）
⑥スポーツ観戦・一人で服を買いに行くこと・漫画・アニメ・映画・筋トレ・日焼け
⑦一年目なので店舗の先輩方も受賞している新人賞獲得を目指して日々業務に励みます！

100周年記念事業

皆様に募金をお願いすると同時に令和４年６月の記念事業に向けて準備を進めてきた経済学部創立 100 周年記念式典も、いよいよあと半年に迫りました。大分支部会員のご協力が事業の成否を握っています。多くの支部会員のご参加をお願いします。

①経済トップセミナーの開催

令和３年９月 29 日の広瀬勝貞大分県知事の講演に続き、令和４年２月 17 日まで、大分県にゆかりのある著名な方々に講演していただきます。

第２回：令和３年 10 月 21 日（木）　前日本銀行総裁　白川方明氏
第３回：　　11 月 18 日（木）　サッポロビール㈱代表取締役社長　野瀬裕之氏
第４回：　　12 月　９日（木）　九州電力㈱代表取締役社長執行役員　池辺和弘氏
第５回：令和４年　２月 17 日（木）　九州旅客鉄道㈱代表取締役社長執行役員　青柳俊彦氏

いずれも会場は J:COM ホルトホール大分の大ホールで 14:00 から開始します。入場無料。
お申し込みはここからもできます。

②記念式典６月 25 日（土）

会場：iichiko 総合文化センター「音の泉ホール」
13：30 より記念式典　　15：30 より直木賞作家安部龍太郎氏講演会
17：00 より大分支部総会　　18：00 より記念祝賀会

③前夜祭

式典の前日、大分駅前の“お部屋ラボ祝祭の広場”で、学生が中心になり賑やかに音楽等を楽しみます。

④記念ツアーの催行

６月 25 日（土）に開催される記念式典の前後、24 日と 26 日に宇佐神宮や臼杵石仏など県内の国宝を巡ります。主として県外から帰ってくる卒業生を対象にしていますが、大分支部のみなさんも興味があればご参加ください。

⑤記念ゴルフ大会

６月 26 日にゴルフ大会を計画しています。大分支部の皆さんも県外から帰ってくる同窓生と一緒にプレーを楽しんでください。

⑥芸術文化祭「自遊展」

iichico 総合文化センター1階のアトリウムプラザで６月 24 日～ 26 日に開催します。

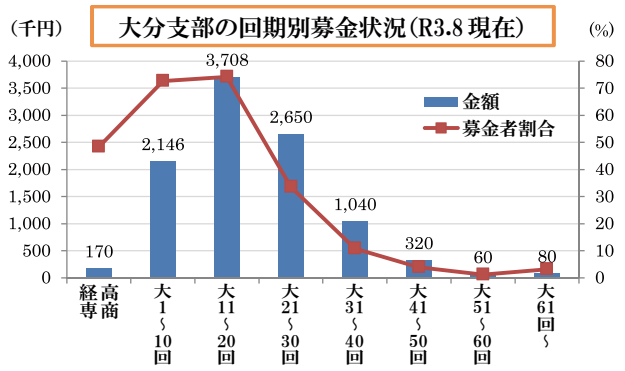
百周年記念募金

記念事業のための大分支部の募金は、皆様のご協力により、令和三年八月末日現在、千百九十三万円に達しています。支部役員の方々や、成和会、山水会、旦桜会などといった世代会の皆様には募金推進で大変お世話になりました。

ただ、会員一人当たり一万円を基準に設定した大分支部の目標額二千二百三十万円には遠く及びません。目標達成率は53・5％にとどまっています。未だ募金をされていない方には、是非ともご協力をお願いいたします。

グラフは、回期別の募金状況を表しています。棒グラフは募金額です。大11回から20回の山水会世代の募金額が最も多くて、三百七十万円を超えています。次いで旦桜会世代の大21回から30回卒業生が二百六十五万円、三番目は成和会世代の大１回から10回の二百十五万円でした。

折れ線には回期別の募金者割合を表しました。回期別の延べ募金者数を、名簿で住所が大分支部管内になっている会員数で割ったものです。募金者率では成和会世代と山水会世代が70％を超え、高商・経専卒の方も50％近くに達しています。旦桜会世代は30％強でした。



目につくのは大41回～50回より後の世代で、残念ながらあまり協力を得られていない点です。四十歳代までの現役で活躍中の方々が該当します。ここに大分支部の課題が凝縮されています。ただ、金融機関や公務員など、大分支部以外の職域支部に勤務されている方は多くの場合、そちらで募金されていますからこのグラフには反映されていません。参考までに職域支部では豊和銀行、大分銀行、大分合同新聞、大分大学の各支部が目標を達成しています。

俳句

和田　こうせい（大学2回）

一湾の雲ほぐれゆく遠青峰
大船山の雲を払いて青芒
道遠く卒寿の支え晩夏かな

短歌

辻野　治弘（大学9回）

今夕の県内ニュースの気がかりの
コロナ感染0人安堵す
さるすべり青天を突き咲きほこる
汗を拭きふき足とめ見上ぐ
台風去り鳩の朝鳴きもの悲し
はぐれし妻を気遣うごとく

小山田　熙光（大学10回）

免許証返上時期を決めかねる
便利と不便天秤にかけ
目覚むれば賑やかなりし蝉時雨
梅雨明けの空澄みて爽やか
湘南の孫娘より電話あり
幼言葉に心が和む

木山　広喜（大学10回）

「待たせたな」疎（まば）らとなりし駐車場
リモコン押せばウインク呉るる
庭隅の工具の箱が傾きぬ竹の子は今
とぐろとなりて
車窓から地下足袋出でて春うらら
工事現場は昼休みどき

谷　庄一郎（大学11回）

くぐもりてマスク社会は静かなり
笑み含む眼が言葉となりぬ
空港をはるかに望む浜に立ち
打ち寄す波に八十路を重ぬ
関の海色群青（あお）くして波高し
はるか姫島かすみて浮かぶ

次森　久雄（大学23回）

仏間には蝉と読経の我の声
朝の合唱ともに活きおり

亡き父母の体温なるや墓石は
ぬくもりており拭く手止めたり

悲なき日々にしあれと仏壇の
写真の父母に語りかけるも

川柳

糸永　文雄（大学2回）

来春は開学祝う百周年
兄弟で肩組み歌うコチャエ節
月下美人大輪香る夏の夜

松本　幸男（大学5回）

保育園「おやつ」の項もある監査
終戦日六年生の暑い夏
時の流れ早さに気づく余命表

城元　保昭（大学7回）

肩書が取れて問われる人間味
余名表あと何年と指を折る
渡る世間仏と鬼が共に棲む

本多　廣（大学12回）

路傍地蔵　ひとり佇み　誰を待つ
百日紅　猿も見とれて　滑り落ち
黄泉の国　旅は片道　乗車券

八鹿 TM

井上義彦（大11回）
熊谷光顕（大34回）
萱島周也（大53回）
清水優太朗（大60回）

時代の"おいしさ"を、あなたに。
八鹿酒造株式会社
〒879-4692 大分県玖珠郡九重町右田3364番地
TEL.0973-76-2888 FAX.0973-76-3071
ホームページ http://www.yatsushika.com

四極会ホームページを活用しよう

リニューアルして二年半

平成三十一年四月に百周年記念事業の一環として四極会ホームページをリニューアルして二年半が経過しました。掲載情報を随時追加・更新し、会員名簿も使いやすく改善するなど、内容の充実に努めています。

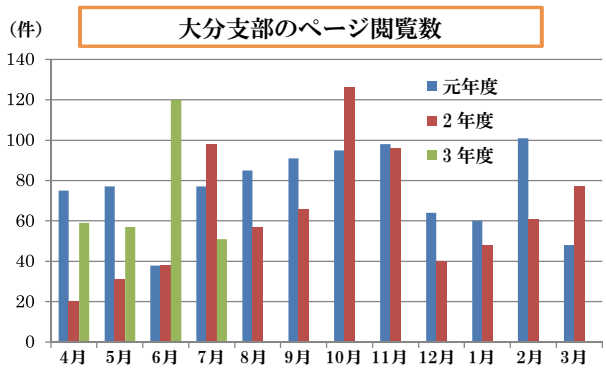
四極会の事なら何でもわかるホームページを目指しています。もしまだ見られていない方がおられましたら、ぜひ一度「四極会」で検索してみてください。下のQRコードから入ることも可能です。

会員名簿などは間違いなく重宝します。回期別、地区別、アイウエオ順で名前を検索することができます。会報のページではこの「四極大分」のほか、「四極」「東京四極だより」など四年前からの会報をみることもできます。

大分支部の皆さんがホームページ活用の先導役

特に充実しているのが、わが大分支部のページです。登山会など各種親睦会の報告も、その都度、参加者に寄稿していただいています。

グラフには、月別に開設以来の大分支部ページの閲覧数を表しました。ホームページには、本部情報、会報、世代会等と並行して支部別のページがあり、そのうちの大分支部ページだけを取り出したものです。月に50件程度といっていいでしょうか。四極会ホームページを開いたときには、大分支部のページも閲覧してください。



また、四極会ホームページは会員を繋ぐ双方向ツールになることも目指しています。同期生にお知らせしたいこと、同窓生に紹介したい近況などがありましたら事務局にお知らせいただければ直ちに掲載します。

挑戦する学生

三浦　里芳

はじめまして！社会イノベーション学科三年の三浦里芳と申します。先日、四極会ホームページにクラウドファンディングの情報掲載をしていただきました。

私は別府翔青高校時代に商品開発を行ったことをきっかけに、大学でも自分自身の可能性を広げたいと思い地元の大分大学経済学部に進学しました。進学してからは、学内外の様々なセミナーに積極的に出席し、人脈を広げ、事業の計画や運営、前述のようなクラウドファンディングへの挑戦とともに、ファシリテーターやパネリストなども経験してきました。

今年の七月には一カ月間、毎日、十八時～二十三時まで、旦野原ハイツで学生を対象としたキッチンカー（食事提供）事業を行いました。キッチンカーは一カ月間のレンタルで、和泉屋様の駐車場をお借りしました。

私がキッチンカー事業をしたいと思ったのは、コロナ禍の影響により街の店舗の営業時間が短縮され、学生がアルバイトを終える頃にはスーパーなどが閉店していて食品の調達が困難であること、しかも、旦野原ハイツをはじめ大学周辺に飲食店がほとんどなく、学生たちは食事や食生活に本当に苦労していることを知っていたからです。実は、私もそのひとりです。

一カ月間キッチンカーを運営する中で、経営の難しさや大変さなどを学ぶとともに、普段の生活では出会うことのない学生と出会え、多くの学生や地域の方々といろいろなお話もできましたし、それが自分自身の支えとなる貴重な機会となりました。

経営をしていく上で利益を求めることはとても重要です。しかし、今回は利益ではなく、学生に満足してもらえる商品を提供したいという思いで取り組みました。一カ月で四百七十一人の方にご来店いただき、「もっと継続して欲しい」という意見もたくさんいただきました。また、縁あって、四極会の先輩にもお力添えいただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

残り少ない学生生活ですが、コロナ禍というこれまでと違う環境の中で自分自身が出来ることや、やりたいことに精一杯挑戦していきますので、温かく見守っていただけますと幸いです。今後ともよろしくお願い致します。

大分支部の会員数

四極会の活動は、皆さんが納めてくださる会費によって支えられています。

大分支部には、会費納入形態によって、企業単位で納入する「職域企業会員」と、個人で納入する「個人会員」の二種類の会員がいます。

職域企業

十九社に会員数　二〇四名の会員がいます

梅林建設㈱、江藤酸素㈱グループ、大分朝日放送㈱、大分県信用組合、大分交通㈱グループ、大分トヨタ自動車㈱、大分日産自動車㈱、大分バス㈱、㈱大分放送、㈱オーイシー、㈱古城、㈱佐伯建設、㈱大宣、鶴崎海陸運輸㈱、㈱テレビ大分、㈱トキハ、㈱トキハインダストリー、西日本電線㈱、㈱豊後企画集団

個人会員　三三九名

高商、経専卒業生　十二名
大学(上野丘卒業生)一六六名
大学(旦野原卒業生)一六一名

会費会員には支部総会のご案内、大分支部が発行するこの「四極大分」や本部の会報「四極」をお送りするとともに、希望者にはホームページで会員名簿を閲覧するためのID、PWも発行します。お知り合いの同期生等に四極会活動に参加されていない方がおられましたら、是非、会費会員になるようお声掛けください。ご連絡いただきましたら直接、関係資料をお送りします。

職域企業にご案内する「職域交流会」は、現役で働く会員が横の繋がりを築くのに役立っています。また、例年百名近い経済学部の三年生が参加する「学生と先輩の交流会」は、学生が企業等で働く若い先輩に質問を投げかけて社会人の実態を知ることができると好評です。

大分支部とは別に、卒業生の多い企業等では職域支部ができています。現在七つの職域支部があって、大分支部と連携しながら運営されています。

職域支部

大分県庁、大分市役所、大分銀行、豊和銀行、大分合同新聞社、大分大学、ジェイリース㈱

●表紙写真の言葉

「保戸島回想」

佐藤　睦典（院27回）

昨年二月、家族と四浦半島の河津桜を見た帰りに半島の最端、間元に立ち寄った。約100mの間元海峡を挟んだ先に保戸島が見える。保戸島は、津久見港から北東約14kmに位置し、周囲約4km、面積0・86㎢、人口は約六百人だ。マグロの遠洋漁業の拠点としてにぎわったが、産業構造の変化とともに過疎化が進んでいる。保戸島は、私が海事関係の仕事を始めるきっかけとなった場所だ。十年前、島にある鮪延縄漁業船主組合から労務管理を依頼され、船員や漁船を調べるうちに海、港、船に興味を持った。それ以来、時間さえあればカメラを手に持ち、県内外の港を巡っている。今はコロナ禍で島へ渡ることができないが、収束したらまたぜひ行ってみたい。

編集後記

幅広い年代の方々が、それぞれの思いを込めて執筆していただき、本号をお届けできるようになりました。お忙しい中、皆様のご協力に対し、深く感謝申し上げます。

このうち、定番の四極鼎談については、大学17回生の四人の方々による座談会となり、当時のバンカラな学生生活や寮生活、さらには、盛んだった学生運動など、どこか郷愁を誘う内容になっています。

翻って、現在はどうでしょう。昨年からコロナ禍の状況が続き、感染拡大に伴い、大分支部の事業も次々と中止を余儀なくされています。

「朝の来ない夜はない。」少しずつでも現状が好転し、来年の百周年が無事に迎えられることを願ってやみません。

（事務局是永記）

編集委員

委員長　髙井　道晴（大学21回）
委　員　柴尾　敏夫（大学18回）
　　佐藤　浩一（大学24回）
　　小河　裕宣（大学33回）
　　住山　真美（大学47回）
事務局　髙橋　秀武（大学21回）
　　是永　弘実（大学23回）

忘年会、新年会予約承り中!!

ホテルクドウ大分は、天然温泉のある、和室の多い、旅館風ホテルとして生まれ変わりました。
宴会場、会議室もございます。宴会、会議、研修などに、ぜひご利用ください。

ホテルクドウ大分
Hotel Kudou OITA
大分市金池町１丁目 11-6
フリーダイヤル 0120-34-3884　TEL 097-532-3981　FAX 097-536-6217

※(株)大分カードが発行するOkiDokiポイントの付いている個人カードが対象です。

世界にひとつ。
あなたにひとつ。

大分銀行グループ
株式会社 大分カード
代表取締役社長 菊口 邦弘
(大学29回)

〒870-0035 大分市中央町2-9-22
TEL.097-537-4347
http://www.oitacard.co.jp/

詳しくはこちら
大分カード 検索

住生活のことなら 私どもにお任せください

売買

マンション・戸建・土地の売却、購入、買い替えに関するご相談、お手続きをサポート。
「中古物件購入＋リフォーム」のご相談も承ります。

賃貸管理

入居者募集から入居者管理、建物管理までさまざまな形でサポート。

空き家管理

留守宅や空き家の管理をサポート。入院やリハビリ、転勤や相続などでご自宅を管理することが難しくなった方へ最適なサービスをご提供いたします。

相続サポート

相続対策や資産継承をサポート。事前の対策から相続後の対応まで、円満でスムーズな相続を実現するためのサポートをさせていただきます。

不動産の総合コーディネーター
BUNGO (株)豊後企画集団
賃貸住宅管理業者 国土交通大臣(2)第94号　宅地建物取引業 大分県知事(12)第1196号

〒870-0007 大分市王子南町5番6号
TEL.097-537-4975
(本社代表)

豊後企画 検索